

令和 年度 (上期・下期) 助成事業報告書

団体名	ポラントリアフィルム・プロジェクト	設立年月	2020 年 7 月
		団体人数	15 人
事業名	アカイブ写真展 NOT PERMANENT BUT PERMANENT 東儀一郎の見た昭和の熊本		
実施日時 ・ 会場	2023年12月23日～2024年2月25日 熊本市現代美術館 ギャラリーⅢ	参加人数	アカイブ作業 15名 来場者数、不明。

活動内容・活動成果

今日の展示は、八代市坂本町で生まれ育ち、戦後、高度経済成長の最盛期の坂本町でアパレルデザイナーとして写真撮影を続けた故郷東儀一郎(1919-2001)の自宅に眠ったフィルムをデジタル化してアカイブ写真展を開催した。

開催期間、2023年3月東儀一郎のフィルム回収、熊本市現代美術館、坂本町内の公民館に、再度ポラントリア有価物集、4-6月に全体の内容、総数の把握、7-8月に一部のデジタル化作業を行った。今回は主に展示に使用する坂本町に関する写真と優美し、約3000カットをデジタル化。9-12月は本展の準備と並行し、坂本町民等への周知を取り、東儀一郎から内容の指定を行った。展示では、71点を展示し、内容の指定で2台もは配布資料として設置はしていないと提出した。

また、今回は実際に水害で被災した家屋、復興住宅建設に伴う取り壊しに耐えた小学校の建具を、千代田市のアカイブフィルムとして利用し、アカイブ写真と資料としての展示にこだわらない。空間展示、展示台のインテグレーションを構築する要素を入手し、大変好評だった。

会場は写真のみで、見た人が言葉を出さずとも「語りの場」になるよう意識した。実際、加えて顔合わせ、来館者同士の会話はおもしろ場面あり。100通ほどの感想を寄せられ、それを「お見い」語り、「見」場にした。

今後アカイブ活動も継続し、地域にも循環するよう活動を行う予定と検討中。

一般財団法人 熊本放送文化振興財団 様

下記のとおり、収支決算を報告します。

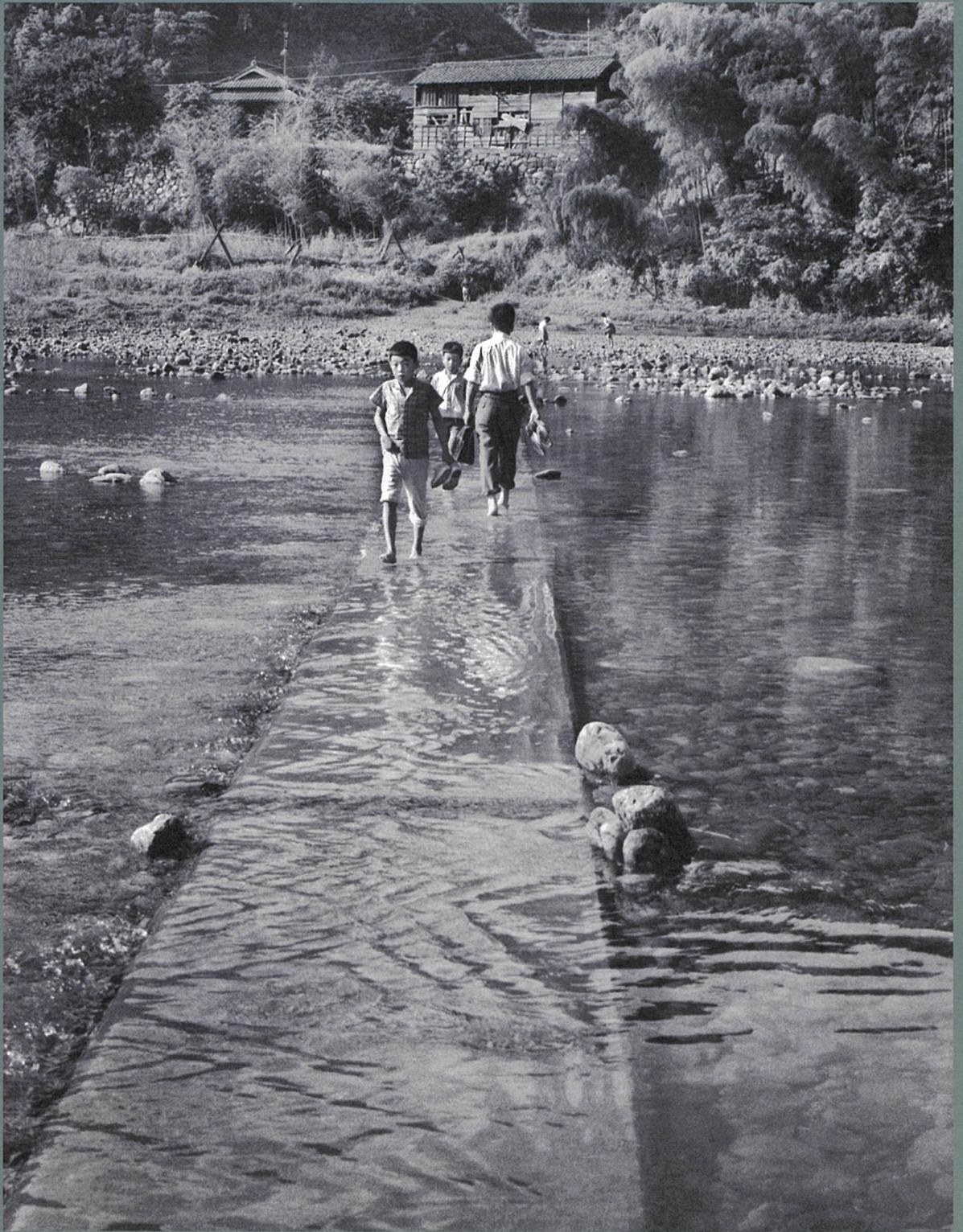
収支報告書

収入の部

収 入	
内 容	金 額
自己資金	64,620
熊本放送文化振興財団助成	50,000
合 計	¥114,620

支出の部

支 出	
内 容	金 額
印刷費(写真用紙)	60,145
印刷費(印刷用インク)	17,881
印刷費(配布資料印刷)	36,594
合 計	¥114,620



沈下橋を渡る子どもたち。荒瀬ダム撤去後に沈下橋も姿を消した。(1964年)

G3-Vol.153

NOT PERMANENT BUT PERMANENT

東儀一郎が見た昭和の坂本

2023.12.23 [sat] - 2024.2.25 [sun]

10:00-20:00 (火曜及び 12/29~1/3休館) 入場無料

熊本市現代美術館 ギャラリーⅢ *GⅢ(ギャラリーⅢ)は、熊本・九州ゆかりのアーティストを紹介するスペースです。

○主催：熊本市現代美術館 [熊本市、公益財団法人 熊本市美術文化振興財団]

○助成：熊本放送文化振興財団、熊本県芸術文化振興会 ○協力：ボランティアグループあめつち

熊本市現代美術館

Contemporary Art Museum, Kumamoto

〒860-0845 熊本市中央区上通町2-3 びぶれす熊日会館3階 TEL 096-278-7500 www.camk.jp

NOT PERMANENT BUT PERMANENT

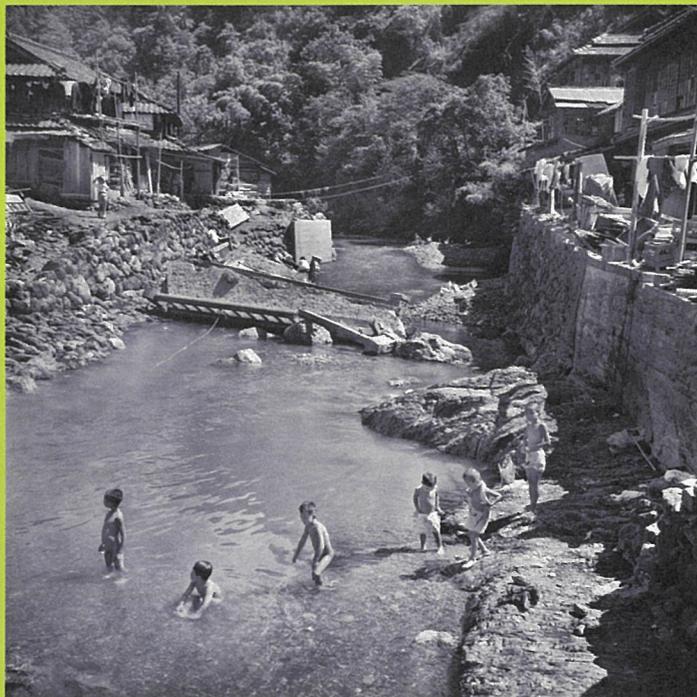
— 永続することはない、しかし永久的な —

景観が変わっていく、失くしていくということは、そこにあったはずの人の営みの跡も消えてしまうような気がした。けれど、写真の中の人や町は、同じ息遣い、同じ時間が巡り続いていく。

本展は、熊本県八代市坂本町で生まれ育ち、戦後高度経済成長の中で写真を撮り続けた、ひとりのアマチュアカメラマン、故・東儀一郎氏の視点で見た坂本町のアーカイブ写真展です。

球磨川流域に位置する坂本町は、令和2年7月豪雨により甚大な被害を受け、東氏が撮り続けてきた写真のネガやプリントの一部も水損、それをきっかけに写真家の豊田有希を中心としたボランティアグループが、「令和2年7月豪雨REBORNプロジェクト」として、クリーニングし、デジタル化作業を行いました。その後、現在は空き家になった東氏の自宅に、昭和30~40年代の町の最盛期をとらえたネガやプリントが多数残されていたことから、今まさに変わりゆくとする坂本の風景を残そうと、デジタルアーカイブ作業を行ってきました。

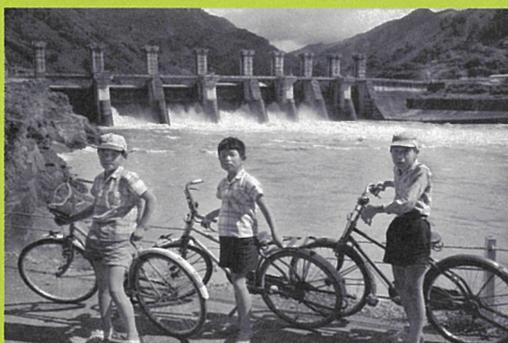
会場では、球磨川とともにあった人々の暮らし、町の一大産業であった製紙工場、ダムと災害などの視点をもとに、水害やその後の影響で解体になった民家や小学校の建具などとあわせて、坂本の記憶と風景を展示します。



油谷川。水害のあとも子どもたちは水遊び。



葉木駅前。大漁旗を振って国体のカヌーの応援。(1963年)



荒瀬ダム前で、仲良く自転車と一緒に。



バスできた人たちにお土産。

関連イベント

ワークショップ 「坂本の風景を語る・味わう」

2023年12月23日(土) 14:00-15:00

東儀一郎さんの作品や坂本町の風景について語ります。

○出演:豊田有希(写真家)、溝口隼平(Rebornリバーガイド) ○場所:アトラボマーケット

○定員:20名 ○参加無料・要予約(坂本町のおいしいもの付)



東儀一郎

ひがし ぎいちろう (1917-2001年)

1917年に熊本県八代郡下松求麻村(現・八代市坂本町)の農家を営む家に生まれる。旧制八代中卒業後、台湾総督府に奉職、その後、旧日本軍の飛行兵として東アジアを転戦。誠戦闘機隊教官として特攻隊員を沖縄に送り出したのち終戦。戦後は、十條製紙坂本工場に勤務し、バイクに乗って町の各所で写真を撮影した。「広報さかもと」に多数掲載されたほか、日本報道写真連盟八代支部長などを務めた。また、書や尺八など、多芸多趣味な晩年を過ごした。

CAMK
Contemporary Art Museum, Kumamoto

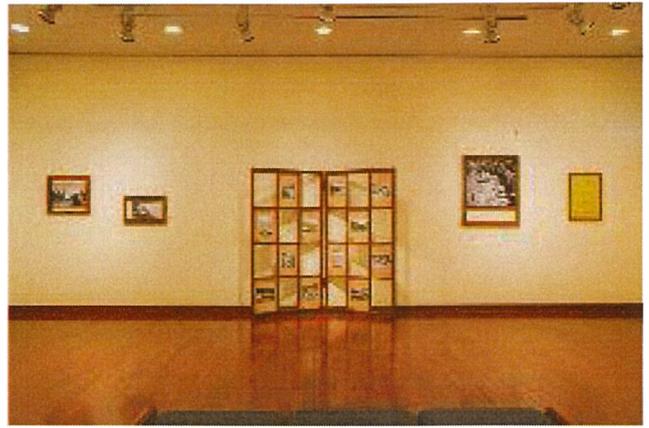
www.camk.jp



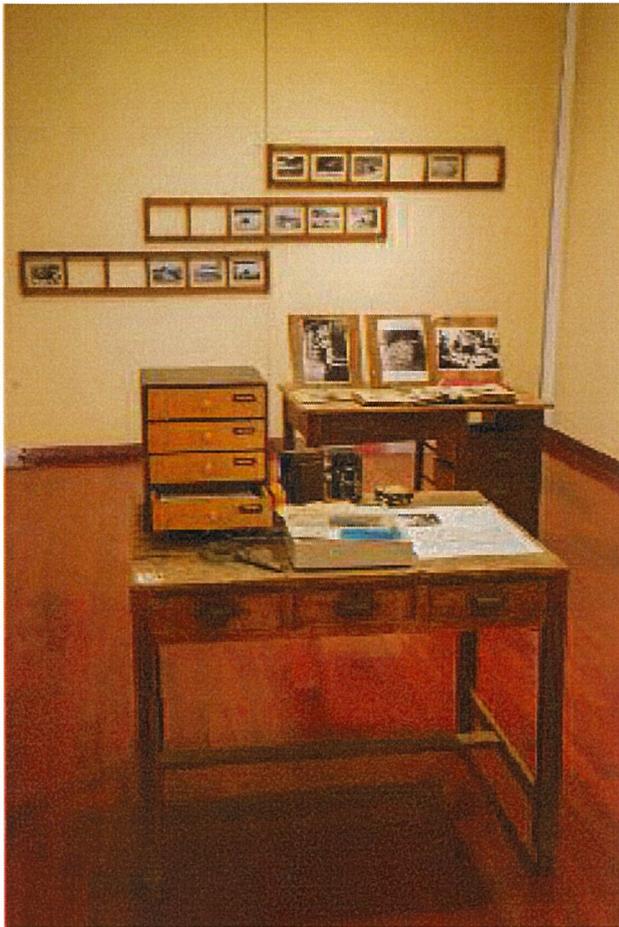
<展示会場風景>



会場全体風景 1



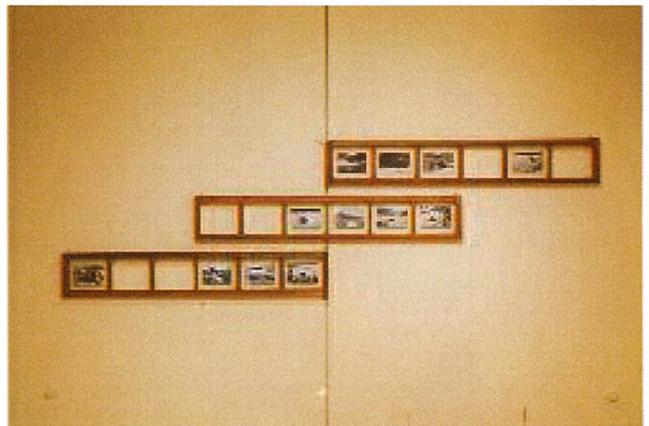
会場全体風景 2



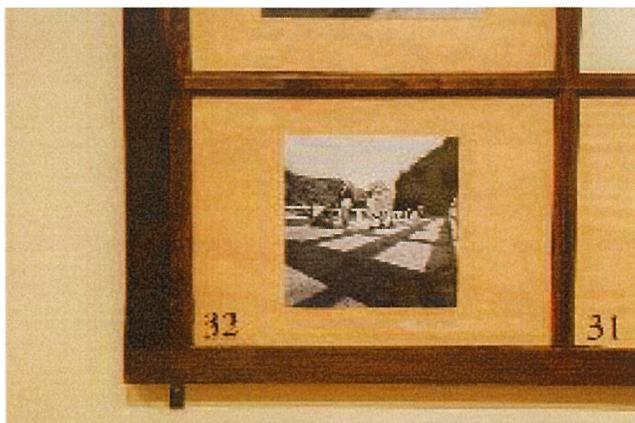
東儀一郎氏作業部屋をイメージ



建具を利用したフレーム



窓枠をそのまま利用



文字情報は別途配布資料にし、番号を記載



小学校の教員名簿を利用